

富山大扇工業株式会社



2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年4月1日 ～ 2024 年3月31日)



作成日： 2024年4月25日
更新日： 2024年10月3日

目次

1. 環境経営方針	3ページ
2. 組織の概要	4ページ
3. 実施体制図	5ページ
4. 環境負荷、環境目標の実績	6ページ
5. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容	7ページ
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	8ページ
7. 代表者による全体の評価と見直し・指示	8ページ

□ごあいさつ

当社は 医薬品・化粧品等の機能性パッケージング事業を通じて、日々豊かな生活作りにまい進しております。

その一環として、事業活動のあらゆる側面において、常に地球環境保全を意識し、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

富山大扇工業株式会社

代表取締役社長 合田昭男

□環境経営方針

富山大扇工業株式会社は 「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に機能性容器の技術革新によりQOL（Quality of Life：生活の質）の向上を通して社会に貢献する」というダイセングループ経営理念に則り、
医薬品・化粧品等の機能性パッケージング事業を通じて、地球環境保全への貢献・持続可能（サステナブル）な社会の実現のため、全員参加で自主的・積極的・継続的に以下の改善に取り組んでいきます。

1. 環境関連法規制等を順守します。
2. 電力量の削減等の省エネ活動を通じて、二酸化炭素排出量の抑制に取り組みます。
3. 常に生産の合理化に努め、省資源・分別リサイクルの徹底を進めながら廃棄物削減を推進していきます。
4. 地域の環境保全を意識し、水使用量の効率化に努めます。
5. 化学物質の適正管理に努めます。
6. 物品のグリーン購入やグリーン調達に努め、またバイオ原料を使用した製品を導入することで 持続可能型社会の形成に取り組みます。
7. 製品からサービスまで事業活動全体を通じて地球環境の保全、環境負荷低減に配慮致します。

制定日： 2023年6月9日

富山大扇工業株式会社

代表取締役社長 合田昭男

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

富山大扇工業株式会社

代表取締役 合田 昭男

(2) 所在地

本 社 富山県中新川郡上市町広野新269

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 合田 由佳

TEL：076-473-0336

担当者 岡 仁志

(4) 事業内容

プラスチック製品の製造

主要製品：医薬品・化粧品容器

(5) 事業の規模

製品出荷額 6,36 億円

		本社
従業員	名	72
延べ床面積	m ²	3,349

(6) 事業年度

4月1日～3月31日

□認証・登録の対象組織・活動

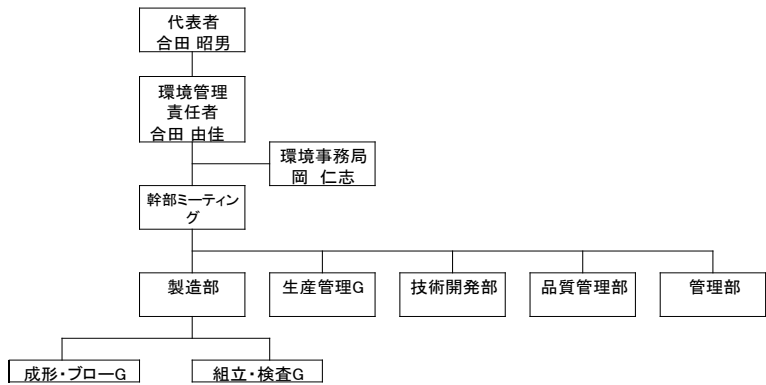
登録事業者名： 富山大扇工業株式会社

対象事業所： 本社・工場

対象外： なし

活動： プラスチック製品の製造

富山大扇工業株式会社 実施体制図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、幹部ミーティングの事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
幹部ミーティング	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021	2022	2023
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,120,61	1,904,86	683,305
廃棄物排出量	kg	44,731	88,537	82,910
一般廃棄物排出量	kg	11,539	17,995	10,105
産業廃棄物排出量	kg	33,192	70,542	72,805
総排水量	m ³	899	362	498

※電力の二酸化炭素排出量換算値
（電力会社変更による換算値変更有り）
※二酸化炭素排出量において、LPGは微量のため含まず

0.406 kg-CO₂/kWh（2023年4月～12月）

0.342 kg-CO₂/kWh（2024年1月～3月）

□環境目標及びその実績

年 度 項 目		基準値 (基準年度)	2023		2024年 (目標)	2025年 (目標)
			(目標)	(実績)		
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	720,574	864,440	680,974	698,956	691,751
	基準年比	2019年	120%	95%	97%	96%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,280	2,121	2,331	2,098	2,075
	基準年比	2019年	93%	102%	92%	91%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	722,854	866,561	683,305	701,054	693,826
一般廃棄物の削減	kg	11,539	10,847	10,105	10,731	10,616
	基準年比	2019年	94%	88%	93%	92%
廃プラの削減	kg	17,850	16,601	72,805	16,422	16,244
	基準年比	2019年	93%	408%	92%	91%
水道水の削減	m ³	480	470	498	466	461
	基準年比	2021年	98%	104%	97%	96%
グリーン購入の推進	%	—	アイテム数の比率でモニタリング			
化学物質の削減			維持・管理で推進			
製品・サービスへの環境配慮			数値目標は設定せず行動目標			

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成　×未達成

活動：◎よくできた　○まあまあできた　△あまりできなかった　×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
--------	------	--------------------

電力による二酸化炭素削減

数値目標	○	今年度は基準値に対し、5%の削減を達成しました。主な理由として、生産数減少による電力消費量の減少が考えられます。また、成形機入れ替えにより電力量を抑える取り組みをしました。今年度は猛暑によるエアコン使用量は増加しましたが、1月二酸化炭素の排出係数の低い電力会社へ乗り換えたため、目標を達成することが出来ました。次年度へ向けては、ソーラーパネルの導入など、引き続き検討しすめたいと考えます。
節電呼びかけ継続（全社員へ通達）	○	
成形室・組立室のLED切替	×	
設備機械の更新、省力化検討	△	
	－	

自動車燃料による二酸化炭素削減

数値目標	×	今年度の自動車燃料削減による二酸化炭素排出量削減の目標は7%でした。対して実績は102%と大幅に増加しました。理由としては、トラック自社便を導入したことにより、軽油使用量が増えたことが考えられます。来年度は基準年の設定を変更して、引き続きco2削減を進めていきたいと考えます。
・オンライン会議の活用による出張機会の低減	○	
・走行記録による車両使用管理の徹底	○	
・タイヤ使用状況の適正化（給油時の空気圧のチェック）	○	
・急加速、急減速運転の防止徹底	○	

一般廃棄物の削減

数値目標	○	今年度の一般廃棄物削減活動は、上期は、過去の資料の廃棄を進めたことにより、対目標未達となりましたが、下期は、2019年と比較して生産量が減少した為　廃棄物量が減少しました。2024年12月に生産管理システムの導入を予定しており、これに伴う　紙資料の削減を2025年度にかけて進めていきます。
・分別の徹底呼びかけ	○	
・新複合機の導入による両面および　白黒コピー推進	○	
・社内配布文書の削減	○	
・段ボール仮梱包からポリ折り畳みコンテナへ	○	
・5S活動の推進（部門別活動計画書で運用）	○	

廃プラの削減

数値目標	×	今年度の廃プラ削減活動は、目標の7%に対して390%となりました。過去から処分できていなかった廃棄を進めたことが、未達成の理由です。過去分と本年度分の廃プラの量の区別ができていなかったため、次年度実績は2024年度で把握します。
・滞留廃プラスチック類の処分促進	○	
・分別収集の徹底（有償引取り分の増加）継続	○	
・リサイクル業者との連携による効率処理（BOX処理）	○	
・品質管理徹底による不良ロスの削減	△	

水道水の削減

数値目標	×	前年度退避104%となり、ほぼ同等に推移しました。10月11月に成形トイシでの水漏れがあり、使用料が微増しました。今後は医薬品関係の受注を見越して、自動水栓の導入や成形トイシの廃止の検討を進めていきたいと思います。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	

グリーン購入の推進

数値目標	－	今年度はアイテム数の比率でモニタリングを実施しました。比較対象がないため、今年度は未達成となりました。来年度は目標設定を決めて進めたいです。
・購入時での環境配慮型資材の可能性確認	○	
（事務用品グリーン購入比率向上）		

バイオプラスチックの利用促進

数値目標	－	2023年度は1品種ブローで導入した。今後は、対象を増やすため、営業・客先との交渉をすすめていく。
・バイオプラスチック配合製品の導入	○	

製品・サービスへの環境配慮

数値目標	－	上期に生産管理システムのベンダー選定ができ、下期にシステム導入に向けたプロジェクトが始まった。自動梱包ラインの量産を複数機種で導入した（直近1月にもYWLキャップ転写機更新により作業効率の改善が進んだ）
・在庫的確な把握と数量管理の徹底	○	
・工数管理の徹底と工数削減への創意工夫	○	
・配送効率の向上	○	

化学物質の適正管理

数値目標	－	640品目のSDSシートの確認、およびリスクアセスメントの実施にて化学物質の適正管理を行いました。
・化学物質の適正保管(場所・表示)	○	
・成分表に基づく化学物質毎の使用量管理	○	

5S活動の推進

数値目標	－	年度を通して5S活動（毎月）、清掃活動（毎朝）、フィロソフィー教育（毎月）、下期から5S巡回を実施して5S改善を強化しました。次年度も活動を継続していくとともに、推進委員以外の一般社員も積極的に取り組めるような啓蒙活動を行います。
・工場内5Sパトロール活動推進	○	
・毎朝の清掃活動の継続	○	
・フィロソフィー教育による社員のレベルアップ	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属屑、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音規制法、振動規制法	空圧機
フロン排出抑制法	業務用空調機、冷凍機
ダイオキシン類特措法	小型焼却炉
消防法	指定可燃物・危険物の保管

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年4月24日

地球温暖化対策、地球環境保全への取り組みは、企業にとっても事業継続できる

大前提の一つである。

2023年度終了時までの活動評価として

- ① 環境経営計画に対しPDCAをまわすことで、社員の意識向上につながった。
- ② 環境保全への取り組みを社員全員が共通認識のもと引き続き推進してほしい。
- ③ バイオプラスチック製品の量産を開始した。2024年度は更に拡売する。
- ④ 製品・サービスへの環境配慮の観点で、自動機の導入による工数低減、部品点数の軽減や薄肉等の軽量化への提案を進める。

方針、実施体制の変更は必要なし。目標・計画において、2017年版ガイドラインに合わせた活動計画の項目名称の変更をおこなう。

（旧）製品・サービスの環境配慮 → （新）課題を解決し、チャンスを生かす取り組み